

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.30

会員の皆様へ

今年は暖冬のせいか、例年より1週間も早く桜が開花しました。桜前線も速いスピードで北上しているようです。枯れた枝に一斉に淡いピンクの花をつける桜を美しいと愛でる美意識は、日本人特有のものと思っておりましたが、この花を見ようと多くの外国人が日本を訪れているのだそうです。桜の木の下での宴会にも外国人の姿が増えて、「HANAMI」が国際標準語となる日も近いかもしれません。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「新年度を迎えるに当たって」：中大技術士会副会長 小林 進	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会	3 ページ
■ 部会報告	4 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動報告	5 ページ
■ 第12回中大技術士会定時総会開催のお知らせ	6 ページ
■ 「技術士第二次試験合格者」大幅に減る	7 ページ
活動計画	8 ページ
■ 企画部会活動計画	8 ページ
■ 大学支援部会活動計画	8 ページ
■ CO2 環境対策技術研究会活動計画	8 ページ
エッセイ	9 ページ
■ 「理科大好きの実践」：林 知幸さん（上下水道部門）	9 ページ
■ 「海外移住滞在記（なぜそこに居るの）」（前編）：藤森公彦さん（応用理学部門）	11 ページ
技術士第一次試験合格者から	13 ページ
■ 「技術士第一次試験合格に向けて」：高橋 直希さん（建設部門）	13 ページ

■ 「新年度を迎えるに当たって」：中大技術士会副会長 小林 進（情報工学、総合技術監理）

広報部会長として中大技術士会のホームページ、メーリングリストの管理、ニュースレターの発行を担当しています。

ホームページは中大技術士会からの情報発信の場として 2007 年に開設し 9 年経ちました。ニュースレターは 2005 年に第一号を発行し、一時中断の危機がありましたが、会員の皆様のご協力により 10 年続き、この号で 30 号を迎えることができました。しかし、ニュースレターの最大の役割である会員相互の交流の場としては、道半ばです。ニュースレターが真の役割を果たすには、会員の皆様の更なるご協力が必要です。皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。



さて、本題に戻ります。このニュースレターが届く頃には新しい年度を迎えていると思います。職場を変わられた方、昇進された方、新しく社会人になられた方など様々かと思えます。そのため、新しい環境でストレスを感じている方、希望に燃えている方もおられると思います。そこで、皆さんに一つ提案します。今の気持ちをこのニュースレターに発信してみませんか。自分が考えていること、感じていることを文章にすることで、具体的なイメージが持てます。記憶にも残り、新しい発見に繋がるかもしれません。また、自分が気づいていないこと、不安の原因に気づくこともあります。ご存知の方もおられるかと思いますが、「アイディアマラソン」を提唱している樋口健夫さんという方がいます。今は、「アイディアマラソン研究所」を立ち上げ、アイディアマラソンの普及活動を行っています。アイディアマラソンは発想法の一つで、簡単なルールにしたがって日々発想したことをノートに残す手法です。この方から伺うには、現役時代は海外赴任が多く、様々な体験をされたようです。その中で、日々気づいたこと、思いついたことを記録することから「アイディアマラソン」が生まれたそうです。これと似た手法としてセレンディピティカードという名刺サイズのカードがあります。このカードを常に持ち歩き、気づいたことをその場でカードにメモするものです。いずれの方法も思いついたことを記録に残し、忘れないようにする考えが根底にあります。ヒラメキは他の記憶の影になり思い出しにくくなるため、メモに残して顕在化させる考えです。面白いと思ひ、少し挑戦していますが、思いついたときに特定の記録用紙に書き残すことを習慣化するのが意外に難しく、折角書いたメモを無くしたり、分からなくなることが多々ありますが、止めないでいます。書きやすさという点でも一長一短があり、今は気楽に書けるということで A5 のノートに書けるときに書いています。脈絡なく気づいたことをメモするだけでも意外な発見があります。例えば、この原稿を書きながらメモを見ると、日本技術士会の CPD 講座で「皆さんは、進化の反対は？と聞かれたたら、何と答えますか」というものがありました。その時の講師の説明は、「単純に考えると退化になるが、深海のように光が届かない環境に住む場合、眼は不要なため住む環境に合わせて眼がなくなったのは進化」ということでした。すなわち、住む環境に合わせて変化することが進化、住む環境が変わっても何も変わらないことは退化という説明でした。このように考えると人間は進化しているのか、退化しているのか難しいですが、常に進化し続けたいものです。面白いと思ひ記録に残しただけですが、このような形で使うとは想像もしていませんでした。

最後に、新年度を迎えて生活環境が変わった方が多いと思います。その生活環境の中で力強く生き続けるためにも何か行動して進化してください。

■ 幹事会

本会では、概ね月に一度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。

役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成 27 年度 第 7 回幹事会	H27 年 12 月 9 日 (水) 18:30~20:00 学会 550 会議室	1.会長挨拶 2.各部会報告 (1)総務部会 特になし (2)企画部会 <ul style="list-style-type: none"> ・10月25日、多摩キャンパスのホームカミングデーに参加した。 ・11月1日~3日、理工白門祭に参加。 燃料電池自動車、スターリングエンジンなどを展示。 ・第2回講演会を11月26日都市環境学科の山田正教授を講師に招いて「ゲリラ豪雨や洪水等の水災害から生活と安全を守る」を演題に開催した。 ・テクノロジー懇談会を12月7日に開催した。 ・法曹会との交流会を来年2月開催で日程調整中。 ・公認会計士会との交流会を計画中である。 (3)広報部会 <ul style="list-style-type: none"> ・HPの掲載状況が報告された。 ・会員の異動状況を整理した。 ・メーリングリストをメンテナンスする予定である。 ・ニュースレターの巻頭言を会長、副会長、幹事長の持ち回りで執筆することにした。 (4)大学支援部会 <ul style="list-style-type: none"> ・「科学技術と倫理」の講義を岩瀬幹事と藤森副会長(現顧問)の担当で終了した。 ・「技術者倫理講義」は、12月9日現在、第11回まで終了した。 H28年度は林幹事長から大畠幹事に変更することになった。 3.CO2 環境対策技術研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・12月23日、クリクラ(町田市)の工場見学を行う。 4.各学会との協力事項 特に報告なし。
平成 27 年度 第 8 回幹事会	H28 年 1 月 20 日 (水) 18:30~20:00 学会 715 会議室	1.会長挨拶 2.各部会報告 (1)総務部会 <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度一次試験合格者報告があり、学生の合格者数が全大学で2年連続第1位となった。

行事名	開催日程	活動概要
		<ul style="list-style-type: none"> • 物理学科のガイダンスが終了した。大塚幹事と林幹事長が担当した。 • H28 年度に 1 年生の全学科対象に技術士ガイダンスを行う。坂林副会長が計画之中である。 • 技術士会主催の一次試験合格者歓迎会(2月 20 日)に内藤会長、坂林副会長、林幹事長が参加する。 • 天野浩氏逝去に弔電を送った。 <p>(2)企画部会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2月 15 日の法曹会との交流会への申込み者が少ない。 • H28 年度第 1 回講演会(総会時)に向けた講師を検討中。 • 公認会計士会との交流会を同会吉井氏と調整中。 <p>(3)広報部会</p> <ul style="list-style-type: none"> • HP 掲載事項の報告があった。 • ドメイン、サーバーの更新を行った。 • ニュースレターVol29 を編集之中である。 • ニュースレターVol30、32 の編集担当を、渡辺、今野両幹事が担当する。 • 技術士会との打合せで、個人情報の取り扱いに注意するよう指摘があった。 <p>(4)大学支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> • H28 年度の「科学技術と倫理」講師は、岩瀬幹事と西川幹事が担当する事に決まった。 • H28 年度の「技術者倫理」シラバスを作成中。 • 筏プロジェクトは報告事項なし。 <p>3.CO2 環境対策技術研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> • 研究会を 12 月 23 日に行ったが、参加者が減っている。 <p>4.各学会との協力事項</p> <p>特に報告なし。</p> <p>5.その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • 庭山理事との面談結果を会長から報告された。 • 幹事会の開催回数を減らすため、会長・副会長の事前協議および部会で、会則の変更を伴うか検討し、幹事会を改善する方向で確認された。 • 中大技術士会の名前入りの「クリアファイル」を作成し、各種行事などで配布することが了承された。

■ 部会報告

○企画部会活動報告

項目	内容
法曹会との交歓会	<p>日時：H28 年 2 月 15 日（月）18:00～20:30</p> <p>会場：ユニゾ御茶ノ水ビル 2 階</p> <p>講師：嶋田貴文 弁護士</p> <p>講演：「マンションの工事の瑕疵を巡る問題－耐震ゴム偽装を例として－」</p>

項目	内容
	参加者：中大技術士会 24 名、法曹会 26 名
第 10 回テクノロジー懇談会	日時：H28 年 3 月 29 日（火） 18:00～19:30 会場：後楽園キャンパス 3 号館 3907 教室

○広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	メールリストおよびWeb名簿のメンテナンス実施
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.30 作成、発行
HP新規掲載	①ニュースレターvol.29 の掲載 ②法曹会との交歓会開催案内掲載 ③CO2 環境対策研究会第 25 回研究会開催案内掲載 ④第 10 回テクノロジー懇談会開催案内掲載
その他	・入会申込みのページを作成
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020 年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。

○大学支援活動報告

項目	内容
「技術者倫理」講義	H28 年 1 月 20 日までに 15 回の講義が終了しました。

■ CO2 環境対策技術研究会活動報告

行事名	開催日程	活動概要
第 24 回研究会 見学会参加者 12 名 交流会参加者 11 名	H27 年 12 月 23 日（水） 13:00 小田急線「鶴川」駅 集合 見学・説明 14:00～15:15	クリクラ町田工場、中央研究所の見学／予め提出した質問事項への佐藤工場長の回答・質疑応答 交流会：16:00～18:00 町田駅「創作ダイニング夜の宴町田店」
H27 第 3 回幹事会 出席者 5 名	H28 年 1 月 28 日（木） 18:30～20:00 中大後楽園校舎 5310 号室	第 24 回研究会（クリクラ）の報告 第 25 回研究会の企画 金町浄水場／手賀沼 北千葉導水ビジターセンター／PSS
H27 第 4 回幹事会 出席者 7 名	H28 年 2 月 25 日（木） 18:30～20:00 中大後楽園校舎 5305 号室	話題提供：大石副会長「CO2 吸収材の最近の研究状況」 第 25 回研究会(PSS)の応募状況 第 26 回研究会の企画 金町浄水場
第 25 回研究会 見学会参加者 20 名 交流会参加者 15 名	H28 年 3 月 18 日（金） 14:30JR 常磐線「北松戸」 駅集合 見学・説明 15:00～17:00	プレジジョン・システム・サイエンス(PSS) 田島社長のプレゼン／見学／質疑応答 交流会：17:45～20:00 松戸駅「土間土間松戸西口店」

■ 第 12 回中大技術士会定時総会開催のお知らせ

第 12 回中大技術士会定時総会開催のお知らせ

第 12 回中大技術士会定時総会を 5 月 28 日（土）に開催致します。

今年の特別講演会では、理工学部応用化学科教授の小松先生をお招きして、小松先生が研究されている「人工血液」についてご講演していただきます。

今回のご講演では、ヒト用の人工血液はもちろん、JAXA との宇宙空間を利用した共同実験、イヌ用人工血液等、幅広い内容でご講演していただく予定です。

また、今年も定時総会の開催前に、第一次試験合格者向けの第二次試験ガイダンスを開催致します。

多くの会員の皆様のご参加をお願い致します。

1. 日時 平成 28 年 5 月 28 日（土） 14:00～18:30
2. 会場 後楽園キャンパス 5 号館 5233 教室
3. 開催内容 (1) 第 12 回定時総会 14:00～
(2) 特別講演会 15:15～
講師 理工学部 応用化学科 小松 晃之 教授
講演テーマ「人工血液が日本の未来を救う」
(3) 懇親会 17:00～ （会場：5 号館地下食堂）

※技術士第二次試験ガイダンスは、同じ会場にて定時総会前の 12:30～13:30 に開催致します。

4. 参加費 定時総会 無料
特別講演会 1,000 円（中央大学の学生・教職員は、講演会参加費は無料です）
懇親会 3,000 円
5. 定時総会の詳細は、中大技術士会のホームページ（<http://www.chuo-u-pej.org/>）に掲載しますのでご覧ください。

■ 「技術士第二次試験合格者」大幅に減る

3月1日(月)に技術士第二次試験の合格者が発表されました。難関試験に合格された人は、おめでとうございます。また、残念な結果に終わった人も来年は実力を発揮してください。

さて、今年の大学別の結果は下記のとおりとなりました。

平成 25 年度の結果	平成 26 年度の結果	平成 27 年度の結果
第 1 位：京都大学	第 1 位：北海道大学	第 1 位：北海道大学
第 2 位：北海道大学	第 2 位：京都大学	第 2 位：京都大学
第 3 位：東京大学	第 3 位：東京大学	第 3 位：東京大学
.....
第 16 位：中央大学(52 人合格)	第 12 位：中央大学(56 人合格)	第 28 位：中央大学(39 人合格)

前年に比べて順位が第 12 位⇒第 28 位と大幅に下がりました。極めて残念な結果です。合格者人数増加の対策としては、つぎの 2 つが考えられます。

1. 合格率の上昇(分子を増やす)
2. 受験人数の増加(分母を増やす)

平成 27 年度の結果を詳細に分析してみますと、中央大学 OB・OG の受験人数の減少が原因と思われる。しかしながら、大学 OB・OG への受験支援は、極めて困難です。

困難理由としては、

1. OB・OG への連絡方法が無い。
2. 受験指導するにしても無償支援には限界がある。

等々です。

現在、中大技術士会で行っている OB・OG への支援は、合格率の上昇を目的とした中大技術士会総会の前に行う受験ガイダンスのみとなっています。

しかし、現在在学に行っている第一次試験受験ガイダンスを継続すれば、技術士第一次試験への受験人数の増加が期待できます。そして、受験条件を満足する 4 年後又は 7 年後以降に第二次試験の受験数が増加して、合格者人数が増加すると考えています。受験人数が増加すれば、上位ベスト 3 に入る事も可能となります。

本会の取り組みにより、中央大学在学生の第一次試験合格者数は、平成 26 年度・平成 27 年度の 2 年間、全国大学の連続第 1 位となっています。

中大技術士会会員の各位におかれましては、下記にご協力をお願いしたいと思います。

1. 中大技術士会総会の前に行う第二次試験受験ガイダンスの OB・OG 受験生への告知
2. 在学生に行う第一次試験の受験ガイダンスのご協力支援
3. 卒業生への 4 年又は 7 年後以降における第二次試験の受験支援

数年以内に中央大学が上位ベスト 3 に入れますように、ご協力をよろしくお願いいたします。

活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

■ 活動計画全般

○企画部会活動計画

行事	日程	内容
中大技術士会 H28 第 1 回講演会	H28 年 5 月 28 日 (土)	定時総会時に特別講演会を開催 講師：応用化学科 小松晃之 教授

○大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
「科学技術と倫理」講義	H28 年 6 月 7 日 (火) 6 月 14 日 (火)	岩瀬、西川両氏が、ゲストスピーカーとして、 全学科の 1 年生を対象に講義を行います。
「技術者倫理」講義	H28 年 9 月 21 日 (水) ~ H29 年 1 月 19 日 (水)	H28 年度も前年度と同様、5 限 5233 号室で 講義が行われます。

■ CO2 環境対策技術研究会

○CO2 環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
H27 第 5 回幹事会	H28 年 4 月 21 日 (木) 18:30~20:00 中大後楽園校舎 5310 号室	第 25 回研究会 (PSS) の報告 第 26 回研究会の企画 金町浄水場
第 26 回研究会	H28 年 6 月頃 JR 常磐線「金町」駅集合 説明・見学	金町浄水場 交流会：柴又周辺で計画

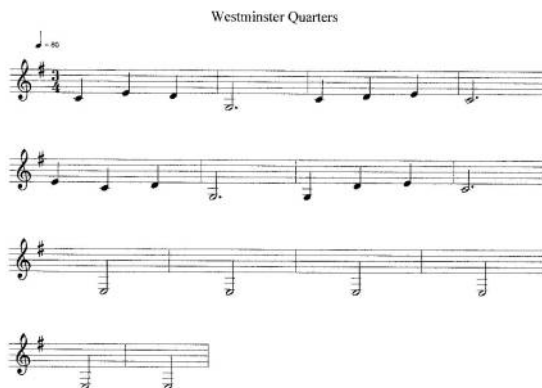
今回は幹事長の林さんと前副会長の藤森さんからの投稿を掲載します。なお藤森さんエッセーは長文でしたので、今回と次回の2回に分割して掲載します。

■ 「理科大好きの実践」：林 知幸（上下水道部門）



『キンコーン、カンコーン』2限終了を告げるチャイムが鳴った。20分休みだ。多くの児童が歓声を上げながら校庭に飛び出していく。

縄跳び、一輪車、雲梯など思い思いの遊び道具に向かって。そんな中、来るぞ来るぞ、理科室のドアを押し開けていつもの2名がかけ入ってくる。「天気がいいので校庭で遊ばないの?」と聞いてみるが、二人は黒板の前に立ち、チョークを取って何かを書き始めた。何かを数えながらマス目を書き上げていく。「水素、ヘリウム、リチウム……」と、つぶやきながら元素記号を順に書いている。「先生、酸素(O)の次は何だっけ」と聞くH君。「フッ素(F)だよ」と答える私。「ああそうだった」と、次々続けて18番目のアルゴン(Ar)まで到達した。となりのT君もその一つずつを確認しているようである。この二人は4年生で仲良しなのである。



私が理科支援員として理科実験のお手伝いをはじめて2ヶ月ほどたった頃から、この二人の「理科室通い」が始まったのだ。20分休みも、4時間授業の水曜日も、給食が終わると揃って理科室のドアを開けてくる。T君は日本(理化学研究所)が113番目の元素の命名権を持っていることを知っている恐るべき4年生なのだ。二人は仲がよいだけでなく、相手より1つでも多くの元素を覚えようと競争しているように見える。『水兵リーベ、バックの船なあとに間がある、シップはすぐくらあ』昔はこのように覚えた記憶がある。彼らはどのようにして覚えているのだろうか。日本技術士会がつくった周期表を印刷したクリアファイルを二人に渡し、今度は縦に覚えてみようと言った。高校生でもここまでできる子は少ないだろう。

さて、理科支援であるが、ある縁で都内S区の小学校にお世話になったことから始まる。この小学校は各学年2クラスの比較的小規模である。4年生以上を一人の先生が理科授業を受け持つ形態をとっている。この形態ならばクラス毎の学習の進捗状態に差が出なくなると思われる。

私は当初、4年生から6年生まで3学年の理科実験を支援するため週2日通っていたが、途中から3年生も実験が始まるのでみてほしいということで、週3日の勤務になった。これが結構厳しい勤務になるのである。各学年の教科書は渡されているものの、クラスの数はいくつか、学校行事がたて込んでくると、実験を含めた授業の進捗に差が出てきてしまう。先生方とメールで次の日の実験内容を確認しているものの、



すべての学年を把握している訳ではない。そのため、毎日教室を訪問して当日の授業(実験)内容を確認する「御用聞き」が日課になっていく。そこからその日の実験内容を聞き出し、必要な器具、機材を準備することになり、結構忙しい作業が待っている。

しかしながら、理科室に保管されてる器具、機材を少しずつ整理し、ラベルを貼り、何年生の実験に使うのか、学年に関係なく共通の備品であるかを把握しているから、慌てずに準備ができるのである。また、学校はいきなりの備品購入ができないので、時には100円ショップや秋葉原で「ニクロム線」などを前もって購入することもあった。

このようにして、2015年度の理科支援はおわりを迎えたのである。一人でも「理科大好き」な子供たちができたかな。



技術士は
『理科大好き』を支援しています

公益社団法人日本技術士会では科学技術振興推進委員会、全国の会員を通じて理科支援活動、教育技術者イベント活動等（以下、「理科教育活動」という。）を支援しています。理科教育活動に賛助いただいた皆さんは科学技術推進者として、「わくわく、どきどき」を体験できます。

今後とも日本技術士会を仰り、理科教育活動をより一層盛り上げていきます。

理科教育活動の目的

- 理工系を好きになり、中・高等学校の生徒及び地域の理・工・農・医・歯・薬・看護・福祉・芸術・文化・人文を教育に高度な知識と技術を持つ技術者が理科教育活動を行うことにより、我が国の科学技術の発展に貢献しています。

理科教育活動の内容

- 理科実験や実習を行います。
 - ① 理科実験、又はサイエンスカフェの実施
 - ② 学校改良系イベントにおける活動
 - ③ その他、理科教育・科学技術普及・交流を目的とした活動
- 活動事例
 - ・ 小学校における理科実験を伝える授業を行いました（図表1）。
 - ・ 夏休み学習グループで、製作した船をよらせる実験を行いました（図表2）。
 - ・ 1日での理科実験を行いました（図表3）。

日本技術士会の役割

- 全国の会員（技術士）が持つ専門知識を活動に活かされるよう、事務局での支援を行っています。
- 全国の理科教育活動の普及・発展に努めています。

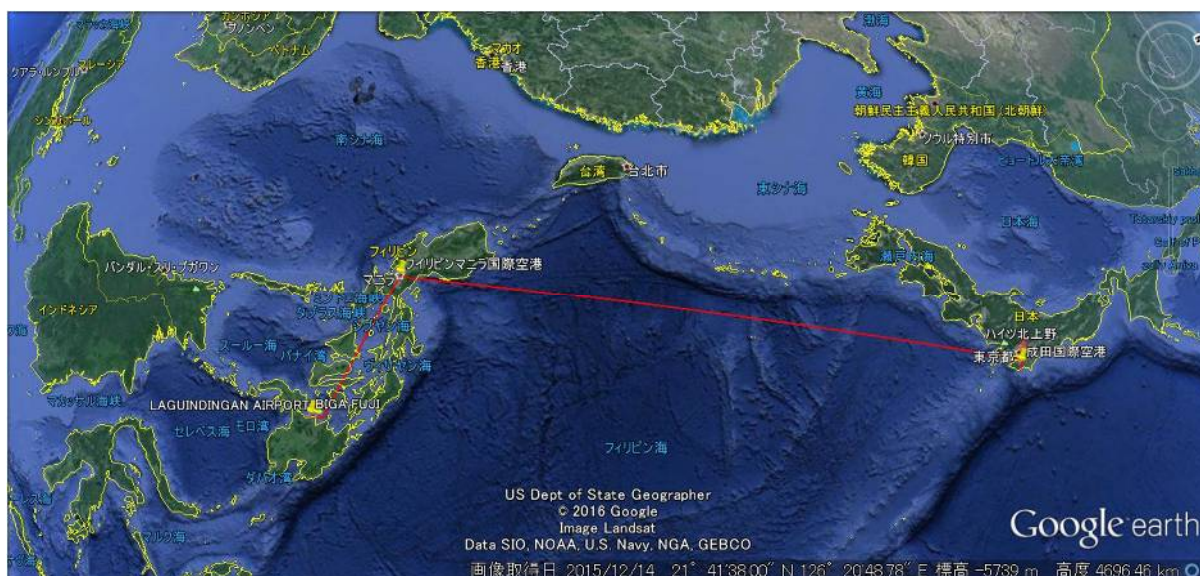
■ 「海外移住滞在記（なぜそこに居るの）」（前編）：藤森公彦（応用理学部門）

昨年（2015年）6月に副会長を退任し、海外へ移住することを決意しました。長い間、中大技術会にお世話になり、色々な人と会い、色々な経験ができたこと紙面をお借りして、お世話になった方に感謝申し上げます。



本エッセイは、分かりやすくするために写真を多く使用しましたので、文章は説明程度にとどめております。

私は、現在フィリピン国ミンダナオ島北西部の本宅のあるイリガン市と別宅の片田舎海岸ピガの両方に住んでおりますが、ほとんど生活しているのは海岸サイドのピガに住んでいます。日本からフィリピンミンダナオ島北西部ピガ（BIGA）イリガン市(ILIGAN CITY)までの経路は次の通りです。



成田国際空港から飛行機で約5時間にてフィリピン首都マニラ国際空港に着きます。その後国内線に乗り換えて約1時間でミンダナオ島北岸ラデンガン（LAGUINDIGAN）空港に到着。

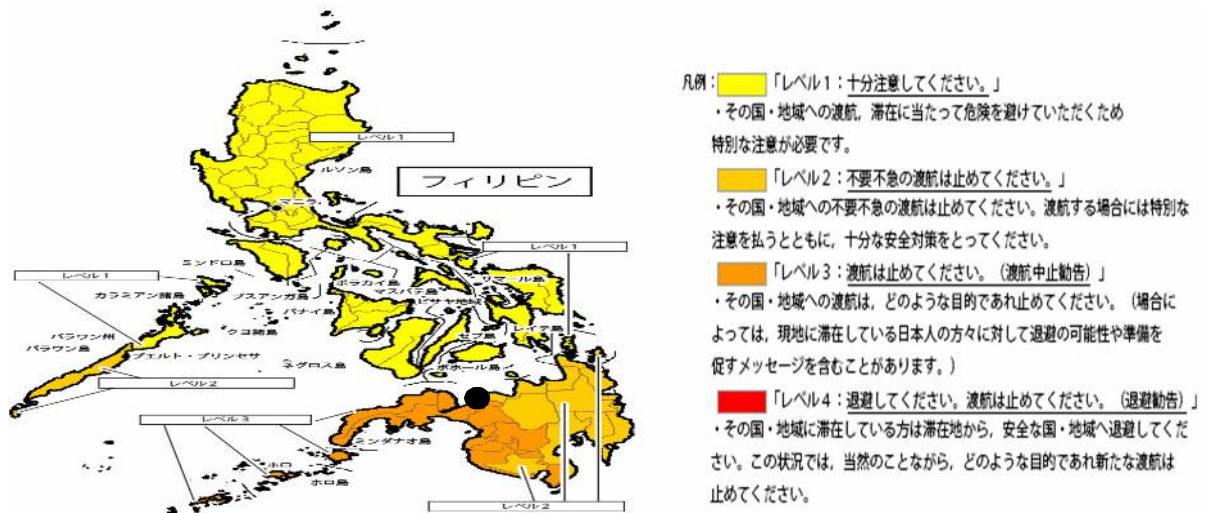


ラデンガン空港から車にて1時間半ほどでピガ（BIGA）に着き、本宅のあるイリガン市(ILIGAN CITY)へはピガから車で30分で着きます。

現在滞在しているミンダナオ島は、北海道より少し大きい面積で島の北西岸に位置するイリガン市は面積775km²（福島市と同等）人口40万人（宮崎市と同等）で水力発電所やセメント工場、肥料工場などがある中核都市です。現地言語タカログ語で会話していますが、小学校から英語教

育されているため英語の読み書きができ話すこともできます。私はカタコトの英語とタカログ語で妻の助けを借りてなんとか生活出来ています。また、気候は平均 30 度で雨はスコール程度で余り降らず、台風通過の多いフィリピンの中で台風が来ない地域です。そのため、服装はテーシャツと短パンでサンダル履きの軽装で日常生活を過ごすことができます。

この地域における治安状況は、日本外務省による渡航情報によると「レベル 3」の渡航は止めてください。（渡航中止勧告）の地域ですが、現地では、山岳部にイスラム過激派集団(アブサヤ)が生活しているようですが、市街地はキリスト教徒とイスラム教徒が混在しているなかで、いたって平和な状況です。しかし、治安維持のために国道の所々では軍隊が検問を実施していますが、普通の生活には支障ありません。



日本外務省の渡航情報

● 印：イリガン市

本宅のあるイリガン市は、ビジネスをする場所にて現地で「ジープニー」と呼ばれている乗合自動車を 10 台所有し、私の妻と妻の親戚の人が経営しています。本宅の道路を挟んだ向かいに現在ビジネスビルを建設中で 9 月ごろ完成予定です。



イリガン市にある本宅兼事務所



本宅と道路を挟んで向かいにあるビジネスビル建設中

フィリピンの乗合自動車「ジープニー」は、道路のどこの場所でも手をあげれば 乗り降り自由で、市内であれば料金は一律現地通貨 8 ペソ（約 20 円）です。また、車は日本などの中古部品を組み合わせたエンジンなどの部品と独特の車体などで出来ており、車が故障すると中古部品を購入しエンジン等の解体・修理を自分たちですべて行います。そのほかの乗り物として、自転車

にサイドカーを付けた「ドライスクール」は、自宅から「ジープニー」に乗るまで利用し、日射しの強いこの地では、暑さをしのぐ日よけ替わりに日常的乗り物として約 5 ペソで乗れます。



乗合自動車「ジープニー」

市内を走る「ジープニー」

さて、私は本宅での経営にはタッチせずに妻とその親戚に任せており、別宅のビガのビーチサイドで使用人 2 名と敷地の管理と動物の世話をし、のんびりと生活しております。

(次号に続く)

技術士第一次試験合格者から

建設部門の高橋直希さんから、技術士第一次試験合格体験談をいただきました。第一次試験合格を目指している方にとって大変参考になる話をありがとうございました。

■ 「技術士第一次試験合格に向けて」：高橋 直希さん（建設部門）

はじめまして。理工学研究科都市環境学専攻、修士 1 年の高橋と申します。私は学部 4 年の時に技術士第一次試験（建設部門）を受験し、合格しました。私の体験談が皆さんの今後の受験に少しでも参考になれば幸いです。

「技術士」という資格について知ったきっかけは、中大技術士会の方々によるガイダンスでした。そこで、「技術士」というものは、科学技術に関する高度な応用技術を持つ技術者として認められた者のことであることを知りました。また、将来的に業務を行う際、社会資本の整備などにより積極的に貢献するためには、必要になる資格であると感じました。そのため、大学時代に身に付けた自分の力を確認するという意味においても、一次試験受験を決めました。また、就職活動をする学生や社会人が持つ資格として、将来的に非常に有効だと感じたことも受験を決めた理由の一つでもあります。受験の動機は人それぞれ違うため、受験日までのモチベーションが維持できるような理由であれば何でも良いと思います。

次に、事前準備についてです。既にご存知の方もいるかと思いますが、技術士第一次試験は基礎、適性、専門科目の 3 種類に分かれて、それぞれの科目で合格点を取る必要があります。そのため、準備としては各科目の参考書（基礎と適性科目は 1 冊になっている場合が多い。）を購入しました。参考書選びに関しては、自分が気に入ったものを購入すればよいかと思いますが、私は



問題の量よりも解説が詳しく書かれて、問題と解答が同じページに載っていないものを選びました。

勉強方法についてです。まず基礎科目ですが、こちらは1~5群に分かれており、自分の苦手な分野が含まれているかもしれません。しかしながら、参考書にも掲載されているかと思いますが、出題傾向を把握することでやらなければいけないことが見えてくるとと思います。そのため、私は最初に出題傾向を把握し、自分の苦手な分野の問題は繰り返し解き、苦手分野で全問正解とはいかないまでも、1問程度は正解できるように準備をしました。適性科目についてですが、こちらは技術士法や倫理観などに関する問題が出題されます。私を含め理系の方々からすると、「法律とか倫理ってなんだか難しそう」と思われるかもしれませんが、こちらの科目に関してもしっかりとした準備を行うことで合格点を取ることができるかと思っています。適性科目は、学生である我々には馴染みのない問題かもしれませんが、問われることは毎年あまり変化がないように思われますので、過去問もしくは参考書を何回も復習することで合格が可能になるかと思っています。最後に専門科目ですが、こちらは部門によって参考書は変わるかもしれません。しかしながら、部門に関係なくやるべきことは同じかと思っています。私が購入した専門科目の参考書は10年分の過去問が掲載されているものですが、予想問題集などでも良いかと思っています。専門科目は35問出題され、その中から25問を選んで解答しますので、自分が自信のある問題のみを解答すれば良いことになります。例年、過去に出た問題とほとんど同様の問題が多く出題されているため、なるべく多くの過去問（最低でも3年分くらい）に触れることが重要かと思っています。また本番のテストにおいて、専門科目は計算問題もありますが、まずは簡単な問題から解き、余った時間で落ち着いて計算問題にとりかかることをオススメします。

また、試験は自分との戦いかもしれませんが、周りの友達を巻き込み、受験日までに刺激し合いながらモチベーションを維持していくことも良いかもしれません。試験に合格することで自信につながるとと思いますので、ぜひチャレンジしてみてください。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2016年4月号 中大技術士会 広報部会 発行